

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部

令和五年四月度 入賞句一覽 投句数 七百十句

度会 さち子 選



特選

海に降る雨よ三月祈り継ぐ

神奈川県相模原市中村 光枝

三月三十一日の東日本大震災から十二年。死者一万六千人。いまも二千五百人が行方不明のまま。海には多くの魂が漂っておろう。あの日も雪交じりの雨が降っていた。雨は死者への涙であり、生きているものの死者への涙でもある。作者の鎮魂の思いと、復興への思いがしみじみと伝わる。三月は祈りの月とつくづく思う。

菜の花忌リム光らせて高校生

大垣市 宇佐美 昭子

「菜の花忌」とは、好きだった菜の花に因んでつけられた二月十二日の司馬遼太郎の忌日。「菜の花の沖」や明治国家をつくっていく若者たちを描いた『坂の上の雲』などの歴史小説や『街道をゆく』などの紀行文やエッセイなど多数の著書がある。懸命に自転車をこぐ高校生に、明るい日本の将来、未来を託したくなる。

浅蜷汁ひとつの記憶閉ぢしまま

不破郡垂井町 竹嶋 富美子

浅蜷や蜆などの貝の中には、ひとつは口をあかないものがある。それを「記憶閉ぢしまま」という措辞で表したことに感服。さて、どんな記憶だろうか。思い出したくないこと、墓場までももつていきたい秘め事か。たしかフランキー堺主演の映画『私は貝になりたい』もあつたか。高齢になると記憶も薄れ、すぐに思い出せないことも多くなつた。

秀逸

知恵の輪のごと初蝶のもつれ合ふ

埼玉県川口市 吉永 寿美子

飛花落花櫂を納めしたらい舟

愛知県長久手市 高間 登美子

さへづりや一途といふは美しく

安八郡輪之内町 野村 照子

振り向けば初音の辺り日の溢れ

不破郡垂井町 北村 廣美

卒業の風真直ぐに門を出づ

静岡県富士市 磯野 昭仁

一鳥の鳴いて囀り生まれり

兵庫県神戸市 岸下 庄二

病棟の鳩の銜や花曇

愛知県尾張旭市 小野 薫

春風がシャボン撫で行く理髪台

東京都西東京市 石井 一郎

掬ひたる白魚水の色のまま

東京都足立区 木幡 忠文

入選

春の夜の少し長湯となりにけり

東京都世田谷区

関戸 信治

をちこちに風と咲きたる黄水仙

大垣市

赤塚 つねみ

土筆採りつつ終活の話など

岐阜市

廣瀬 あや子

いさかひも笑ひもすこし春愁ひ

大垣市

早筈 千恵子

風呂上り足の手入れも朧月

大垣市

吉田 しず子

菜の花や始発電車の車輪音

大垣市

香田 末代

啓蟄やどこを向いても工事中

大垣市

傍島 豊子

春深し砥石とつぷり水につけ

東京都新宿区

花澤 ちいこ

回覧板まわし長居の春の昼

不破郡垂井町

石井 直実

春暁や乳呑み児沈む母の胸

岐阜市

堀江 美州

さみどりに水面明るし柳の芽

大垣市

岡田 あや子

図書館の春の温みの本めぐり

不破郡垂井町

竹嶋 富美子

桑名まで流れて千里花筏

大垣市

石垣 珠泉

はじめての俳句つくり春の風

大垣市

隅本 光子

花冷えや足湯に小さき膝小僧

大垣市

平野 きぬよ

鶏を小屋に追込む日永かな

揖斐郡大野町

藤田 涼子

かぎろひのなかを飛び出す影ひとつ

愛知県西尾市

金子 恵美

やはらかな風しなやかな柳の芽

三重県四日市市

後藤 允孝

雪吊りをほどけば松のひと震へ

安八郡神戸町

高橋 泰

生え初めし仔牛の角や木の根開く

兵庫県豊岡市

辻井 一路

選者吟

花に濡れ鳥声に濡れ翁像

さち子

一般の部

